

## 第1回 堀川・市民がつくるインフラ研究会 討議のまとめ

明治時代を考えるとやはり潮の干満はあり、その頃から自然の現象は変わっていない。そのころはごりも産出されて佃煮になっていた。ただ、河床は確かに深くなっている。その時代の負荷なり機構に戻す事を考えてはどうか。堰というような新しいものを設けるのではなくて、水質を良くすることを考えてはどうか。そのためには名古屋港の水質をよくすることも考える必要がある。

確かにそういう方法もあり、名古屋港の水質を良くすることは考えなくてはいけなからもやっつけていかなければならないが、かなり時間がかかる。負荷を下げるということは技術的に可能になっていくだろうが、現在たまっているヘド口を除去しなければ、魚が息をするようなきれいな川にならない。ある程度堀川の環境を比較的短期間に浄化効果が期待できる方法として、堰を設けるという方法を提案した。もちろんじっくり時間をかけて自然な状態で浄化していくという考え方もある。

昔は白鳥橋付近の堀川で泳いでいた。堀川には海の水が遡上してくる。海の水は素晴らしい力を持っている。海の水によって川に浮いている浮遊物を除去する効果が期待できる。もちろんヘド口はとる必要がある。あえて堰を作って海の水を入れないようにするというのはいかがなものか。

海の水が上がってきて、海の水と同じ水質になってしまう。さらにそこへ川から負荷が入ってきてたまってしまおうという問題がある。

ヘド口の厚さはどれくらいか。

ヘド口については、実測値から50cmくらいではないか。

これを一度に取ることは出来ないか。

ヘド口をとってしまうと構造物に影響が出るため一度に出来ない状況である。

ヘド口も確かにあるが、自転車やその他のごみの有機物ではないものが多い。今庄内川から0.3m<sup>3</sup>/sの水を入れているが、いっそのこと海水をポンプアップして上流から流してやるという方法もあるのではないか。ヘド口はとることが問題なら、とることを考えないで固めたらどうか。50cm河床があがったと考えればよい。流速を速めてやれば自然ときれいになっていくのではないか。名古屋港の水はきれいである。名古屋港の浄化というよりも、ここに入る川の浄化を考えれば名古屋港自体もきれいになる。

海水は比重が重いので、淡水にはいると二重層がしやすい。DOの計測値は最低でも2ppm以上と高めにしている。二重層ができていれば下層のヘド口近くの水はDOがゼロ近いと思われる。DOはどこで測っているのか。上で測ったのか下で測ったのかで異なってくる。海水と淡水が混ざっていいが、二重層になると汚濁の部分が発生し、青潮になったりするので、そのへんのこと考える必要がある。

そのへんの実態がまだ良く調べられていないということもある。今後調べていく必要がある。

現在名古屋港の水質は皆さんが考えているほど良いわけではない。6月から9月までは水面下数メートルではDOがゼロとなっている場合がある。その水が堀川に入ってきている。堀川の浄化を考える上では、特に松重閘門より下流では、名古屋港の浄化を合わせて考えていかなければいけない。また、汚いものを全部海に流せばよいという考え方には大反対である。それは汚濁負荷を単に移動するだけで、結局は全部名古屋港にたまる。そしてそれはまた堀川に遡上してくる。したがってどこかで汚濁負荷を取ってやらなければいけない。そう考えていくのが本筋ではないか。庄内川の導水もそうだが、汚濁を洗い流せばよいという考えがあるが、名古屋港の水は高潮防波堤の先の外海との水交換は非常に悪い。負荷を移動させるというのは今は良いかもしれないが、将来を考えるとやはり名古屋港に入り込む負荷を少なくしなければいけない。名古屋港の水質浄化とこの研究会も連携してやっていかなければいけない。

市民の取り組みについてわかりやすくPRしていただくとありがたい。クリーン堀川のかたがたは非常に協力して頂いている。事業費が少ないなか、一般の市民からも何か負担を頂いて進めていくようなことを考えていただきたい。

先日大垣で洪水があったが、そこに住んでいる人たちはそこで6、7年に1回洪水が起こることを知っていて住んでいる。この人たちは洪水がくることを許容しているのか。そういうわけでは土地が少し安いかもしれない。市民にとっては嫌な事を許容する事によって市民は負担をしているといえる。そうすると公共事業として堤防を強化しなくて良いということになる。そういうことは防災についてはいえる。しかし環境に対する市民の負担とは何かを考えると難しい。先ほどから負荷という話があるが、負荷を与えているのが市民サイドなら、市民が何かしなければいけない。川をきれいにすることを考えた場合、人によって程度が違う。堀川を全部きれいにするか、一部だけでもきれいにするか、私はBODやDOの程度でこれくらいでいいとか、いろいろあると思う。皆がこの場所でこれだけ欲しいということを出すと、とても現実味を帯びないと思う。

市民側から非常に多くの要望がある。その中から、行政側としてどう選択していったらいいのかが難しい。水がきれいになるほうにお金を投じた方が良いのか、市民が憩える場を整備していけばいいのかを選択するのは難しい。

負荷が皆の生活によるものであるなら、どれか1つ現実性のあるものを完成させて、こんなに良くなったということを、こんなに皆が頑張ったらこんなにいいものができるということをひとつ見てみるという

ことが大事である。こんなになるのなら我々の生活も変えていこうと思うようになる。

今、堀川に流れている政策というのは、学術的にも資金的にも極めて現実的で妥当性があると思う。しかし、その場合にはこれから20年30年スパンで時間がかかる。せっかくこういう研究会を特に名古屋工業大学が絡んだ研究会を立ち上げたのだから、学術的に充分裏づけがあることができるのであれば、今の状態よりも時間がかからなくてすむ実現性がある提案を研究されて発表されたいのではないかと思う。2005年に万博があるのに恥ずかしくないか。名工大もプロジェクトXを目指して頑張ったらどうか。

堀川についてはいろいろなところで勉強会や研究会などの取り組みがたくさんやられている。そのなかで一番現実性がある対策でなおかつインパクトが高い対策というのは何かあるのか。

堀川と堀川の沿川の町づくり、まさに都市再生の事業として捕らえる必要がある。まずは市民にいかに関心をもってもらうか。そのための仕掛けや情報発信をどうしていくかが最初ではないか。1つは舟を定期的に運行するようになれば、自然と堀川に目が向いてくるのではないか。行政とか研究者が勝手に研究会をやっても、堀川に背を向けて建物が建っている、沿川は駐車場になっているという状況を変えていく必要がある。とにかく堀川に目を向けてもらうことを最初に考えていく必要がある。堀川を汚したのは我々市民であるのはまちがいない。水質を浄化するためにはこれだけのお金がかかる、これだけお金を使うためにはこれだけの負担が必要であるということを行政ははっきり打ち出したい。そのためには下水道代が上がるかもしれない。そういう事にこれまで行政はしり込みしていた。下水道代をこれだけ上乗せすればこれだけ堀川はきれいになる、きれいになれば堀川の沿川で皆堀川のほうをむくようになり、名古屋の南北の都心軸（かつては名古屋城と港を結ぶ堀川が南北の都心軸であった）として復活させる、そのことが名古屋の都市の再生につながるのであれば、もっとお金を出してもいいと言う人がでてくるかもしれない。そのような情報発信をしていくことが大事である。

情報発信という意味ではいろいろな研究会で、堀川にについていろいろなきれいな絵が描かれているが、これがあまり市民の目に触れていないのではないか。堀川がこのようになるという絵を見て、堀川がこんなに良くなるならいいなと思えることが必要かもしれない。そこで、水質は現状のままで、沿川の整備だけ行っていく事は可能と考えられるか。

市としては、そういうふうには考えていなくて、第1が水質の浄化だと考えて取り組んでいる。まず第1に水をきれいにするのではないのかという、これが叫びみたいなものである。市民といえば、今日クリーン堀川の方々も何人かみえているが、道路などに比べて堀川に対する市民の関心は非常に高いということは承知しておいてほしい。

堀川の水が汚いという大きな原因のひとつに下水処理がきちんとされていないということが挙げられる。高度処理というか2次処理が十分でない。水をきれいにしていく費用は高いということ、下水道料金は今でも高いと言う批判があるけれども、これを倍ぐらいにしたらもっときれいにできるというような具体的な例を示したい。そうした痛み分けが必要というようなことを啓発していく必要がある。これだけ堀川を汚したのは自分たち市民一人一人ではないかということを認識して、自分たちの手でもう一回再生していこうという意識をもっていくことが必要。

堀川をどうしたらいいかというのは、住民の意見を聞けばいいというような漠然としたばかりであって、じゃあ住民のどういった人たちに聞けばいいのかということ、例えば床屋さんであり、タクシーの運転手であり、喫茶店であり、こういった人が集まるところ、いろいろな会話や雑談がなされるところが大切だ。先ほど許容範囲の話が出ていたが、こうした意識をつかむことが必要。川でも上流中流下流それぞれ顔が、それこそ環境が違う。地域に住んでいる人がこうすればよいということが一番良く知っているわけで、そう要望しているわけだ。そういった意見を吸収していこうとする努力をしていくことが重要である。その中で人から教えてもらう。地域の住民が何を欲しているのか。それをきちんと吸い上げていく。それをつめて何がいいのかをお互いにキャッチボールをしていくというのがいいのではないか。

名古屋市は堀川をどういう位置付けにされているのか。堀川の監督責任者は名古屋市である。地震防災では家は個人に責任があるということをつぶ市民は考えるだろう。堀川が汚くなったからきれいにすることを考えると、もともと堀川を汚したのは市民かもしれない。でも汚くなったものを誰が責任を持ってやるのかというと、それは行政になると市民はそう思う。そこをどうクリアしていくかを考えないといけない。そうしないといくら市民に負担を求めても納得してもらえない。

もうひとつは、堀川がきれいになったら、一体市民は名古屋市からどういう恩恵を受けるのかを示さないといけない。そうしないと市民もなかなか振向いてくれないのではないか。技術的にはほとんどのところはクリアできていると思う。その技術をいかに堀川に投入すれば市民も名古屋市も満足できるかを絞り込んでいくことが必要である。それがまさにプロジェクトXかもしれない。

川をきれいにするということを考えてどうしても水質の方に目を向けるが、まず浮いているごみはいちばん簡単に取れるのではないか。橋から川を見ていると市民が川に目をむけたときにまずごみが一番目立つ。ごみは風によって吹き寄せられて川に落ち込むということがある。これが潮の干満によって行ったり来たりしている。今は実際一般市民が川に直接ごみを捨てるというようなことはほとんどない。子供の内から川に目を向け、川を大切にすることを育てることが大事である。